

いわて自然公園特派員だより(岩手県自然保護課)

場所：栗駒国定公園 栗駒山／須川岳 ～湯浜コース草原木道と御室～

令和4年7月24日(日) 情報提供(文、写真) 小原 昭彦



湯浜コース



ナンブタカネアザミとヒョウモンチョウ

下界の猛暑を避け、薄雲がかかった涼しい高山へ。好天に恵まれた標高1,110mのイワカガミ平駐車場は、登山者の車で半分ほど埋まっていた。中央コースは舗装や階段、敷石が整備され最短ルートで登頂できますが、熱中症予防のため呼吸を整えながらゆっくり進み、水分とミネラルでこまめに補給して登りました。

早くも下山してくる登山者とすれ違いながら、1時間半ほどで山頂に辿り着くと、大きな木製の山頂碑と奥宮が登山者を出迎えます。これほど立派な山頂碑は、他の山ではなかなか見られません。山頂には子どもや高校生の姿も見られ、夏休みに入ったことをうかがわせます。



トンボの避暑地



虚空蔵山と御室

トンボの大群が避暑している山頂から天狗平まで下り、分岐から刈払いされていない虚空蔵十字路まで「松波八里」と呼ばれる灌木帯を進みます。ここは近年、木製階段や詰め石が施工され、格段に歩きやすくなっていますが、登山者の姿は極端に少ないようです。

分岐から湯浜コースに進むと、小松沢源流の草原と木道が現れます。(この道を真っ直ぐ進むと湯浜温泉に着きます。)



御室下の大雪渓



御室のスノーブリッジ(崩落後)

戻って「御室」と呼ばれる岩頭エリアに入ると、そこには別世界の空間が広がります。栗駒山で最後に残る大雪渓は、例年よりも大きな塊になっているので、滑落や踏み抜きに注意が必要です。雪解け跡には、ヒナザクラやタテヤマリンドウ、イワイチョウなどの高山植物がお花畑を形成していました。

駒形根神社の奥宮に参拝した後、ザレたトラバース(小石がゴロゴロして滑りやすく、斜面を横切る登山道のこと)を天狗平まで登り返せば、登山者の姿も多く見られ一安心ですが、ここは初心者向けではないので経験豊富な登山者と一緒に歩きたいコースです。